

令和6年度 ながさき農林業大賞受賞者一覧

1 農林水産大臣賞及び長崎県知事賞

	部門及び区分	氏名・組織名等	市町	経営規模等	地区	
1	花き部門 (トップファーマー)	はまつか つよし えみ 浜塚 剛・恵美	雲仙市	カーネーション ハーブ	74a 33a	島原
	【取組内容】 ・実需者ニーズの把握を積極的に行い、土づくりや定期的な土壌分析結果を活用した肥培管理、植物生理を第一に考えた栽培管理の実践により高品質なカーネーションを生産し、浜塚氏を表す「TSUYOSHI'S FLOWERS」としてブランドを確立。 ・UV - Bランプ等の新技術の積極的な導入による減農薬栽培、農福連携により花びらを多色染めした高付加価値商品レインボーカーネーションの生産、外国人材を活用した雇用型経営を実践。					

2 長崎県知事賞

	部門及び区分	氏名・組織名等	市町	経営規模等		地区
1	露地野菜部門 (トップファーマー)	たかうら かつひろ きょうこ 高浦 勝宏・京子	西海市	ゆでぼし大根 すいか 春かぼちゃ 千切り大根 ばれいしょ	550a 460a 100a 80a 100a	県央
2	施設野菜部門 (トップファーマー)	おがわ ひろのり まい こ 小川 博則・麻衣子	佐世保市	トマト メロン アスパラガス その他	34a 34a 17a 65a	県北
3	果樹部門 (トップファーマー)	たにがわ よしひろ かず み 谷川 義浩・和美	長与町	露地みかん 中晩柑 いちじく	219a 42a 10a	県央
4	畜産部門 (トップファーマー)	おがわ ひろのぶ 小川 博信	雲仙市	肉用牛肥育	168頭	島原
5	農産部門 (トップファーマー)	のう じく みあい ほうじん ひろうとえいのうく みあい 農事組合法人 平人営農組合	壱岐市	大麦 水稻 大豆 飼料作物 ばれいしょ	1,117a 548a 285a 282a 90a	壱岐
6	特産部門 (トップファーマー)	ふくだ しん や 福田 新也	東彼杵町	茶 水稻	820a 35a	県央
7	林産部門 (トップファーマー)	かぶしきがいしゃ ながさきりんぎよう 株式会社 長崎林業	諫早市	木材生産	260.8ha	県央
8	しまの農林業経営部門 (トップファーマー)	やまくち ひろゆき 山口 廣行	五島市	春かぼちゃ 高菜 スナップエンドウ	58a 200a 20a	五島
9	産地集団部門 (いきいきファーム)	ながさきけんあうのうぎようきようどうく みあい 長崎県央農業協同組合 とうぶ ぶかい 東部ハウスゴーヤー部会	諫早市	にがうり	5.2ha	県央
10	農山村地域保全部門 (げんきビレッジ)	まぼろし た か き しんこうきようぎかい 幻の高来そば振興協議会	諫早市	構成員数 設立年	48人 平成22年	県央

3 運営委員会長賞

	部門及び区分	氏名・組織名等	市町	経営規模等		地区
1	露地野菜部門 (トップファーマー)	町田 雄輝・一久・かおり・恵子	雲仙市	春ばれいしょ 秋ばれいしょ 種ばれいしょ ミニトマト	230a 230a 59a 17a	島原
2	施設野菜部門 (トップファーマー)	田中 智・美波	島原市	ほうれんそう その他	555a 2,014a	島原
3	果樹部門 (トップファーマー)	瀧口 勇	川棚町	露地みかん ハウスみかん 中晩柑 水稻	209a 36a 30a 70a	県央
4	花き部門 (トップファーマー)	森 敏郎・千佳子	諫早市	洋ギク(マム)	66a	県央
5	畜産部門 (トップファーマー)	株式会社 横田ファーム	南島原市	ブロイラー	95,000羽	島原
6	農産部門 (トップファーマー)	農事組合法人 小野島	諫早市	大豆 大麦 小麦 裸麦	1,870a 2,570a 2,700a 250a	県央
7	特産部門 (トップファーマー)	白石 万登・美樹	南島原市	葉たばこ こきび たかな	290a 200a 40a	島原
8	しまの農林業経営部門 (トップファーマー)	久保 博敬	壱岐市	肉用牛繁殖 水稻・飼料作物 作業受託	12頭 500a 10,800a	壱岐
9	産地集団部門 (いきいきファーム)	JA島原雲仙匠の菊生産組合	雲仙市	きく	5.0ha	島原

4 特別賞

	部門及び区分	氏名・組織名等	市町	取組内容
1	特別部門	株式会社ディーソルNSP システムファイブ株式会社	長崎市	・長崎県や関係団体と連携し、既製品より安価な長崎型統合環境制御装置を開発したことにより、県内の多くの農家に導入され、本県のスマート農業技術の普及に貢献。 ・ハウス内の環境データの一元集約管理が可能となり、生産者間のデータの比較・分析が容易になったことで、各地域の勉強会組織の立ち上げが進むとともに、指導員の環境制御技術に対する指導力の向上に寄与。また、施設園芸生産者のデータ活用に関する意識が大きく変化し、特に、いちごにおいては単収向上並びに産地の維持拡大にも貢献。